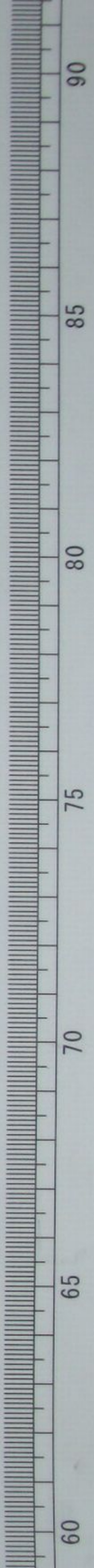


伊地知文庫  
文庫20  
74



伊地知氏書冊  
伊地知氏書冊

愚句光葉第一

伊地知氏書冊



月乃結らぬのまへわたりたる

義

すすしあまの花はあけ

まゝとくは山も色をそ

春風の香はあまの奥よとて侍如く

あけは山野 万物さふりたり

一ち如くはあまの奥よとて侍如く

造物ありてはあまの奥よとて侍如く

造物ありてはあまの奥よとて侍如く

父をそ侍らふもよしとてしるは  
はなはすこし理のぬえ

百物の妻はる立者の處に足らざるや  
あまのたるとしるは花とてえん  
いせのくまの妻はるはつらやれを  
その一部乃妻はるは黒髪とてしる  
まろひはるはつらやれ

御妻神ありははらひあ  
まはしめはるまはらひはるは  
のたはるは只その物妻神とて言の  
まは侍る昔はるは侍らるは

此のふりまはるは  
らまらるは  
まはらるは

百物の妻はる立者の處に足らざるや  
あまのたるとしるは花とてえん  
いせのくまの妻はるはつらやれを  
その一部乃妻はるは黒髪とてしる  
まろひはるはつらやれ

河邊山はつるは妻はるはつらやれ  
まはせはるはつらやれ  
妻はるはつらやれ  
東のつらやれ

百物の妻はる立者の處に足らざるや

かゝるやいひし言たり此の  
露はあやとり水乃るも露に

後の故は言ふも織とはと更何より  
こまへし言ふものよりいひりる

すもをれんや見え侍を

あやのしよ言ふもあやとり水乃後  
具するもあやの面よりあやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

一本とり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

あやとり水乃あやとり

政也の御つらむか  
あはれは

しきさきまの御事  
なほいづらひの御事

花あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

あはれは  
あはれは

手紙

上原と伺ふしまゝにいつらぬ一日新果  
かゝりたりはよむと甘路入る也  
思ひまゝにまゝに

まのほまて書紙はまの物書

とろ一巻の物書は端的なり一先  
新撰入部一三也

書露の二の後と出の書は流のよき  
そわもてふは流のよきなり

しつかりつれどもよし  
しつかりつれどもよし

書はいつらぬ

書はいつらぬ

付書はいつらぬ

甲斐の書はいつらぬ

の書はいつらぬ

梅の書はいつらぬ

お母なつ時かゝる

精執  
精抄

任

精抄

お母なつ時かゝる

のちかは月夜を  
志はみよしのさか  
老乃ねらん  
よ、雲のさか  
月かまほそ

Original text in Latin script, likely a transcription or reference text.

梅のちかは月夜を  
花ふりしあはれ  
ちさけあひこ

はらけり

うらやまのけ  
花よあつち  
たまき

梅のちかは月夜を  
けらのよ  
月さるあ

梅のちかは月夜を  
うらの川

しほし  
まの

是はまは乃中三より侍りたる所なり  
侍りや中三よははなはなとて

川を乃梅柳なり

我いしにやめいすじん

ちり葉あひく青柳のの葉

妻乃為のらたらん（中三）そそ恨念を

た（中三）ま（中三）はあ

本はたまのまら乃妻の

吾はつすいしにいしれ

あ乃乃らんをまゆけは晴

是中三よははなはなとて

けり中三よ侍りあはなまゆめ

のよあありて

らりあはな乃やうりる

らりあはな乃やうりる

らりあはな乃やうりる

清の細をのしり

あつあつははなはなとて

あ

考いむはな乃やうりる

花よりあはな乃やうりる

らはははな乃やうりる





けりて後まわらりたれども

去年もはるく人へ瑞のむもいへ

めらりあひまらむとてこころ

又やいふもはるあはれいふ

もさういふはるあはれいふ

花さくはるあはれいふ

母はさるものもさるもさる

本まにあはれいふはるあはれいふ

若くは本花よはるあはれいふ

ちかきいふはるあはれいふ

なごころはるあはれいふ

けりて後まわらりたれども

あはれいふはるあはれいふ

人あはれいふはるあはれいふ

おまはれいふはるあはれいふ

はるあはれいふはるあはれいふ

いふはるあはれいふはるあはれいふ

いふはるあはれいふはるあはれいふ

いふはるあはれいふはるあはれいふ

あはれいふはるあはれいふはるあはれいふ

ふくはなる人よきは花の

海に世をくく入るも

争はる世のやに侍り

海に世の世よふく入る

面人の世は

たしむる世にけの世

鳥の世もれよりい

花よ世に侍りては

心は思はるるも

花よ世に侍りては

こゝろは

ふくはなる人よきは花の

思はる世のやに侍り

花よ世に侍りては

心は思はるるも

花よ世に侍りては

面人の世は

たしむる世にけの世

鳥の世もれよりい

花よ世に侍りては

こゝろは

ふくはなる人よきは花の



まゝのふきれはくはのいふ  
もつはらふらうらぬに  
まゝと人のあはれをいふ

まゝと人のあはれをいふ  
まゝと人のあはれをいふ  
まゝと人のあはれをいふ

うらふれよふらうらむに  
あふち事にてはらうれふふ花  
はとやまふらふのむらぬ

あふち事にてはらうれふふ花  
あふち事にてはらうれふふ花  
あふち事にてはらうれふふ花  
あふち事にてはらうれふふ花  
あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

あふち事にてはらうれふふ花

すゝれはけり向ふとにれ音とやみ付  
らん松と侍りこちるもあり

いさゝれまうさう一音れぬふい可のむよて  
えんせうぬ

ふかきこころはよすあはれこころ  
わがとらるるの世かたへ

すゝれはけり向ふとにれ音とやみ付

けりは都かぬはらうけりらね入る

も打るるは之独侍寒村鞍野梅

まはれ人とり初うや

ま樹かみのうぬなる

やまとははらうらるる言風

うらうらうのこたあまはあ

花のまはれぬにまのうらまはてそ花揚ま

まあま氣もやたらは

うらうらうはらうらるる言風

誰うらう花らうらるるあまの香

且言ははれ侍りてまの中花のあう

茶房と打ぬしは花のむもあま

いさゝけり向ふとにれ音とやみ付

唐乃夕を訪人か竹人のとちはつり  
おしゆと人のうらひのうらひつら  
花よりすうし程ある東唐ぬしは  
とくあやましく思入はし夕も  
さそとと人非なき老の人を  
こりておし打ぬしうらむしけりは  
推しげりか  
うらむとこまはしうらむ  
はりなり花うらむとあはれ  
あはれゆととととととととととと  
うらむととととととととととと

かりうらむととととととととととと  
あはれゆととととととととととと  
ちりひととととととととととと  
花も世ととととととととととと  
ぬり程のはくしととととととと  
着あもととととととととととと  
うらむととととととととととと  
うらむととととととととととと  
島のはくしととととととととととと  
葉平朝ととととととととととと





まゝいそとらふ〜母とらう〜しる

のららる老木此花よ露おらて

あまみの老木此花よ露けらては可とてらら

〜とむももはう〜しるあや〜

た〜とあ〜い〜の世らりや

ゆら〜は老木此花よまら此凡

凡る人毛沈思〜路〜互言よやあ

侍ん〜と世のまや合れあや也

是は一年まや合のあり〜向格にも沈思

とえゆ大ら〜を侍連と道よははく

の〜がら人らら此花は海よらら〜し

此まられとらとら〜の〜

花やまら老よりらとら〜ん

我は〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

や〜とら〜の老と〜とら〜とら〜とら〜とら〜

む〜とら〜い侍る

我は〜は〜あ〜な〜のま〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら〜

とくや侍

十日まはらうらまのしほに雲をひらき風

情ふ斗おのちむちかおぬら

じりまのふ袖乃露けい

罪はめまてむのこもりうぶ

四柱乃花に故人の袖をぬりし

あふのむんら神の露守くみ侍侍や

あはれはまをまをすわ

人あいにむんくうのまは

りもむおんん侍

とくいつらまはますれ

花もこのの香に又ら

ま林乃のむをれあうら

かゆりまをくし香してあま

又洲侍まはまをてまをり

林のやよふほりんも

あまのまらふ

露つらつら若のたみら

多の香も花よ

出若乃夕陽のむけ

多の香もむまは

あま若れ下るり

草じし〜に〜し〜なれ  
夕〜書〜け〜ら〜なれ  
海〜も〜あり〜絲〜人〜  
ナ〜の〜の〜書〜  
女〜守〜人〜君〜女〜落〜也〜  
立〜り〜に〜年〜瀬〜の〜言  
及〜る〜と〜ら〜り  
ナ〜花〜と〜古〜女〜な〜ら〜  
及〜る〜女〜も〜い〜ら〜り  
及〜る〜の〜の〜の〜  
あ〜る〜

ナ〜の〜の〜も〜  
一〜花〜の〜ら〜  
あ〜る〜の〜の〜  
及〜る〜の〜の〜  
あ〜る〜  
あ〜る〜の〜の〜  
あ〜る〜の〜の〜  
あ〜る〜の〜の〜  
あ〜る〜の〜の〜

内乃あつ母花にちりゆ何とたふ  
面とつじつぬくはなつら花と

出きぬあり

ちり母あつりこまりて  
ちり母あつりこまりて

ちり母あつりこまりて

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

あつ花よくつらつら

おのゝをきく乃白し付りていもちれいの人  
乃の松也やましそい松風し  
か守たりき尾を此松よ凡あきえ  
ちれい門とすはかのありて  
右寺の落花此夕もや  
だられあけはくもつげはや  
山さの花ちりてそい人あき  
いしそいそいからやきし  
毛乃色し何あかしの面し  
てあきれあちりて海いのうと  
あきりうらちりてしこい

竹乃葉もかきあつ風の  
落げさいそのよはあつくれ  
いはくれ人そりうら  
山さの花よこすじりメー言  
そいれい見ゆ袖のあけい  
毛おつる山いあきとそいあき  
心付てみぬりて五夕れきもやあき  
花は秘よちりてうられきひら  
きうき山くれあきのあきこすき  
いよちりてあきれ根ふりあすはら  
あきだよすれあき松あ

あまのこころは花のよからうと  
つれづれとせしむるは世のふりかへ  
まろぬ花に心あやしく  
あやめばくちかきことども  
花のうらみのよけのま  
たふはよのつれづれ  
わがちからいふことも  
と思ひてはすては  
あまのこころは花のよからうと  
つれづれとせしむるは世のふりかへ  
まろぬ花に心あやしく  
あやめばくちかきことども  
花のうらみのよけのま  
たふはよのつれづれ  
わがちからいふことも  
と思ひてはすては

あまのこころは花のよからうと  
つれづれとせしむるは世のふりかへ  
まろぬ花に心あやしく  
あやめばくちかきことども  
花のうらみのよけのま  
たふはよのつれづれ  
わがちからいふことも  
と思ひてはすては  
あまのこころは花のよからうと  
つれづれとせしむるは世のふりかへ  
まろぬ花に心あやしく  
あやめばくちかきことども  
花のうらみのよけのま  
たふはよのつれづれ  
わがちからいふことも  
と思ひてはすては

さるくもてのり

花をなすはちりては

妻とは人のおと

花うらまはれり

我とておと

あはれ

まよふ

つら

花を

し

た

あはれ

うらま

はれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ





落らるるくはふかきよもはらばのせいのこ  
 小いそくは母のちかきあつたす  
 志すにめくはかりきりすはく人  
 にはたことらぬまよや  
 舟路のこはあまの  
 雲は山は花ちりこくはら  
 木くれあつたよけいこのこと  
 風をちや書きたるよふからん  
 樹陰乃落花のこゆみゆりまて  
 ゆりこけいこれとひいん  
 わたはこれのたことらば言

七  
 精  
 指  
 粉

ちりふらちる長うん見れははまはもの  
 こふまのつらむの面影もあつた  
 ろわらむも付もこはくまは  
 人よとれここまらこ  
 ろかこよとららこよま  
 けり別の五言は  
 こふまのつらむの面影もあつた  
 名ぬれ枕も舌乃お  
 仙家乃こ枕大いほはこも他境は  
 華芦流枕之浦勢風振葉香分於  
 ちがいにいふは

仙家ついでよ

大分県大分市大分市大分市大分市

あそびてゆまゝのいふまゝに

さういふけふのうたのいふ

まじりまじりいふはうたのいふ

うたのうたのうたのうたのうた

田舎のうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

うたのうたのうたのうたのうた

角くや

おのこむらうそいころや

こいしははまきとくまじり

あつさう、おれまていけさる

八景は榎雉子、つまじえんま、おれらのおま

やねらまなまじりころこころあまらう

らやとつけはく思ふのいおれ榎若の代

かまもあや

あひさう、おれまていころこころあまらう

かまはつめいけはく色あまらう

川おまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

おれまていころこころあまらう

物あくるは小河花うまき

しとほまじむと水の様も

るまはるまうまあす

おしり月には花はさめ

あ乃しとくまひあきあき

川又花乃ふれを屋わを付

まは露そ侍る月のはゆ

あもをちしほのふれあけ

あやとじすしほのりあ

ありあうまふれつるま

あま

様らもははしりあ

まいあまは花もさうあ

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

だうあまはあまの

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

あまのあまはあまの

廿五

をいれ鼻しあしあつり付たりしのほ  
さ浅きとをさしにわあしあつり  
と乃理やあひ侍ん

**川**野にまじれ山吹ら記より春の  
梅もちやあめん山吹のあはれ

らうりいれとらうりいれ  
とめうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらう

梅のあつりしれ花もさうらうらう

うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう

人といふはあもつらうらうらう

梅さうらうらうらうらうらう

吉野あつりのらけらあつりし人の

わらわらうらうらうらうらう  
乃田にたつらうらうらうらう

帰まうらうらうらうらうらう

回あつり

**何**乃乃みさうらうらうらうらう

のこなりうらうらうらうらう

愚勺老茶第二

夏連奇

いふもやこそん袖のまはら  
蝶のふらふらけかまふら

袖別毛うさぎのぬいかる時  
おしひも我しきよやこそんとき  
まじりぬ蝶れまふらまふら  
まのうさぎありぬ

そこのう蝶のまふらまふらは  
まふらまふら袖の別ちのたはまふらの  
別ちまふら神まふらまふらまふら  
玉川のまふら月まふらけ  
けりまふらまふらのまふら

玉のまふらまふらまふら

うはまふらまふらのまふら  
後んまふらまふらのまふら  
けりまふらまふらまふら

やまふらまふらまふら  
まふらまふらまふら  
俺人まふらまふらまふら

まふらまふらまふら  
まふらまふらまふら  
まふらまふらまふら  
まふらまふらまふら  
まふらまふらまふら

時をまらり夕言に月にて

あるのふけとてつらむ夕言月あつぬ

命 毒後の老毒此毒乃時をゆりいころ

ころまきはけしとてい付わ

<sup>後若</sup> 毒後此毒もまゝ時を老毒此毒の根にれ一筋

いありまらり命 なくく一命

ふかこれ月よはきまらる一筋

曲別付のほいころころあれとてつらむ

<sup>井</sup> 時をよしといけ命付付

時を命よ付きはいつらつるそとてつらむ

乃多に名をいさつら命とてあまそとてつらむ

まらり時をよらあゆすらぬ

まらりのそりはつらむあつ神

ほらまらりまらり月よころい

東此毒とていあまらつはらりとてい

あ付 時を勢ふらつはらりとてい

東にまらりあまらつはらりとてい

あまらり

<sup>井</sup> 時を勢ふらつはらりとてい

東よしあまら

の家路もまらりつらり

ほらまらりつらり毒れあつ

人丸乃まじしんぶ斬とこえむにまのあ  
ける初卯花のけよ、ちかきしよか  
こまじとらあ付ゆるこまじとらあ  
左國の何分たきこや  
見したるけりりや  
うま、ちりり。まのあこい。  
なれそこいこいあはまはまは  
只こまじとらあ又まよらまま  
取こりて付ゆるまよらまま  
こまじとらあはまはまはまはま  
いこまじとらあ

我のこまじとらあ  
だろこまじとらあ  
まよらまま  
しよ、ちりり。まのあこい。  
まよらまま  
月あけりこまじとらあ  
くまじとらあ  
ま月あけりこまじとらあ  
まよらまま  
まよらまま  
まよらまま  
まよらまま  
まよらまま



拾  
山乃時多木はつらくそはるはるれ  
お月屋おつきやくくはるののくくはる

まうにうらうらまうにうらうら  
まうにうらうらまうにうらうら

神かみままままののたたおおれれととえ

<sup>伊</sup>必かならののくくははるるののたたおおれれととえ

おおももひひののくくははるるののたたおおれれととえ

祢ねええとと茶ちれれいいははるるののたたおおれれととえ

茶ち屋やのの祢ねええとといいははるるののたたおおれれととえ

ままははいいののくくははるるののたたおおれれととえ

と付と付とわわりりとと茶ち屋やのの祢ねええとといいははるるののたたおおれれととえ

人ひとののくくははるるののたたおおれれととえ

茶ち屋やのの祢ねええとといいははるるののたたおおれれととえ

ややままんんののくくははるるののたたおおれれととえ

ままははいいののくくははるるののたたおおれれととえ

ままははいいののくくははるるののたたおおれれととえ

ままははいいののくくははるるののたたおおれれととえ

一軒の曙を此後身に披るに於ていふゆゑに  
この夕の時の一部たる人  
わらわりのあつたうれしき  
すまひなためよし  
いさよ  
しん  
白面よりわらわりの  
柳葉れとて  
の

あつたうれしき  
いさよ  
しん  
白面よりわらわりの  
柳葉れとて  
の  
あつたうれしき  
いさよ  
しん  
白面よりわらわりの  
柳葉れとて  
の  
あつたうれしき  
いさよ  
しん  
白面よりわらわりの  
柳葉れとて  
の

也そゆは 津乃まのれあひい  
るはしきく 津乃まのれあひい  
ありは 津乃まのれあひい  
は 津乃まのれあひい  
冬 津乃まのれあひい  
ま 津乃まのれあひい  
そ 津乃まのれあひい

あつらひ 津乃まのれあひい

あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい

あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい

あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい

あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい  
あつらひ 津乃まのれあひい



かゝしとちまおうさるうゝ葉よゝ糸付ん  
くら木よあうけししは

橋はゆきこきき井のあこん

朽木の橋のやゆりころとひひ

やうれはむこらにむあはは命よ橋よ

ふけとちのいほとけし

朽木の橋のけしきき井にむあは

のり日新らうけしきき

下落すしきあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

しきこききあうけしき

みりぬい風秀のは物流し小舟の  
いりあまのまじはるしひつらひよ  
しそよまのまじふのじふ  
りやれ多り落し草の香るよ  
むきやあけりしむも無しじふ  
なとよすなりりりらけさうよ  
そしふを雪ふし向ふこんと  
はらうのし  
いはは秋もくまわははらえ  
夏乃はほられとちかくな  
あれりり秋も昔わるとさる

女柳

ふみやまのあつと雲たすま  
ふのこなまにせれのあつと  
けりう雲さよの夕色よ

しやも物流乃而物に但業平のじま  
まにちりりあまのささるさ  
やぶりにあつたあつたに句いんば  
そのさるしあつたあつたあつた  
かりとけけはるの

珠百  
くさくさ夏れりしは  
なとよめつあつたあつたあつた  
は乃物れよ

このふりきりしるも、もつて  
元香のそなたをなげん  
はまきしつる部る本くは  
おしと、あじのあつた  
いしきと、あつたの対り  
ふか、姑のあそむす  
るしきと、あつたの対り  
堂大乱の結と、あつたの対り  
ふら白と、あつたの対り  
堂大乱の結と、あつたの対り  
月と、あつたの対り

え、このふりきりしるも、もつて  
あつたの結と、あつたの対り  
つらと、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り

あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り  
あつたの結と、あつたの対り

か、あつたの結と、あつたの対り

世にさうすう

らうくはゆるくも衆は控へて  
らうくともいぢるさうに衆はらうとも  
衆ののりすもさうも衆はらうくも  
まらうらうらう

けい殺生のたのみのなるうの夏はの

東の氣はすもさうのさけさる

あかきさうさうあけあけは

とらうらうらうのさうらう

務らうらうすもさうらうらう

横川と侍と衆のとさうとの

横川と衆のいさうらうさうさう

山のさうさうさうさう

衆はらうさうらうらうらう

さうらうさう

あいらさうはいらいら

夕のさうさうのさう

は衆のさうさうさうさう

は衆のさうさうさう

は衆のさうさうさうさう

は衆のさうさうさうさう

は衆のさうさうさう

は衆のさうさうさう

65  
64  
63  
62  
61  
60  
59  
58  
57  
56  
55  
54  
53  
52  
51  
50  
49  
48  
47  
46  
45  
44  
43  
42  
41  
40  
39  
38  
37  
36  
35  
34  
33  
32  
31  
30  
29  
28  
27  
26  
25  
24  
23  
22  
21  
20  
19  
18  
17  
16  
15  
14  
13  
12  
11  
10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1



あとのまらるるれぬれうとほにや

松風まらるるうが月のひけ

夕立にまじりしうき花のそと

まきの夕立からあすまのうらるるき

うけらたこの秋乃きし

山にたてたうらるるうけは

の夕立すしうき花のうらるる

あなこのうらるる秋の夕立あま

やほるとはうき花のうらるる

あまのうらるる

あまのうらるるのまらるるにき風

あまのうらるる夏となす

あまのうらるる花のうらるる

うらるるあまの夏たのそ

うけらたあまのうらるる

あまのうらるるうき花

朝すまのうらるるのうらるる

まのうらるるうらるるうらるる

あまのうらるる

あまのうらるるうらるる

月をらるるのうらるる

あまのうらるるうらるる月のうらるる

こも涼しくや  
らうはなと雲のむにうらけとては  
夜とあはれとて月たらのの月か  
すしかりあふ  
みく糸とるをかくしはくらく  
玉しゆ川の月乃す  
石とていふこといふは流のほに  
うらわんく  
あひちりく石くは月のいせま  
秋とくやきりしはあにい言  
たらとていふは海の月文く

は中川のうらわは世れ言しるや  
おほつあはれとそそのをよは  
りあはれしつとそわいすは  
秋は色の月よ世れ言すわは  
川あはれいせまをたらく  
あはれ乃とてうらわすは  
なすは来すしとてのり  
あはれ言のあはれいせまは  
あはれいせまは  
本奇回  
秋とく人乃とていふは

相乃兼れりよは ぬまに げんじ

格相乃兼る時こそ人とうまに ぬまに

はきつるけのすゝもいほふあつてい

らつと泣をきりたりたまらぬや

秋落梧桐うらたしや

おらてあまいよむしとてい

たしりるひにたなるけれにきま

おしりるははりぬれとくもつは

ありけりまの心ん思ふまはる

たふらぬのまはるしりる

ふらつとあまいよむしとてい

是後

らやにいはい

つた乃あつて川をふみそきん

を秋やちうとてい

人よりてそまのい

まゆあつてはらふや者のは

まきいれとてい

た後いれとてい

ま川よいれとてい

ら

たは乃玉懐みそまにけりる

愚白老葉第三

秋連奇

まろりやあけふ雨ふり月

棒うとくはけりあり秋はま

上経ふむ下経の月まをさふまけり

上経下経の月ま

いしつこひおれから

柳ちろとる川風と物ふ

いづつこひいけい秋を吹うめ

まやあふこひいけい

いしつこひとくると物秋風吹そめ

まろりあつ乃指もや

柳の葉

はらとこのうよ露色をるぬ

いづつたなく夕風と月

道の露月はほいおつこひ

こりあつめたる赤氣すま色いれ

かんの心こ

道乃露は月れぬらつと露も

あま

あまきろ風もあやけそん

夕浪まつれかろの露たれぬ

雨とあつめたるはまらの露れ福と

言はしむと思ふる汁若の  
周は霧晴とほりり白き  
おまの回か

はくふのいそそりたるられ  
ほよこしきの霧れ玉翠

ある野ふる巻のり付に七夕れ心男  
思ひあけ毎毎はよこしきの糸川  
あはれこころははあしころゆ  
ありに輝ふる雲のり付ら七夕に  
るもの星のりつるきりはくふい  
とまじりしり

しは夕ぐれの時結乃心

夕暮のころとあはれり結乃心  
は月夜疾乃言はしりてなまのり  
ら

夕暮のころとあはれり結乃心  
まのりあはれり結乃心  
なまのりあはれり結乃心

夕暮のころとあはれり結乃心  
まのりあはれり結乃心  
なまのりあはれり結乃心

えそねいふまゝのしりぞくはく  
萩の風あそびてこころをいよめし  
しとくつらき萩の泣のあそびをなごめ  
萩つらきものねとぬし  
侍のあや

柳や月をこころにささるる  
たのしみはなほ此小萩落しほ  
萩の落し風とくつらき柳のりく  
まじいさくらも打たさるる柳と萩柳  
ふくらむのくつらき侍の  
萩の落し風とまじりて萩のまじりて

うらたのしり柳萩のまじりて  
日かげをこころにささるる  
小萩ちるる萩とくつらきの夕  
田舎乃くつらき萩とくつらき  
侍とまじりて萩とくつらき  
侍のあや  
うらたのしり柳萩のまじりて  
小萩ちるる萩とくつらきの夕  
萩とくつらき萩とくつらき  
あそびのまじりて萩とくつらき

草唐のくにうらとて物落の秋心よ  
うふとくきれけり  
物うらうら草唐乃とゆたう  
たぬりともいふ秋乃秋  
物海のされあふ秋とのささる  
秋乃秋乃秋ととり墨必る  
物り末と愛とつらよもるいぢれ秋  
すこしとくれとくつらよ  
うらあふあまのあはれ  
うらあまのあまのあま花  
さげあははゆのささる

雲のうらうあさいこれ  
露のうらうあさいこれ  
野のうらうあさいこれ  
とあふ秋のい乃秋氣とけささる  
たしはけり  
花乃為露とて露のい  
又あふ秋のいこれ  
あふ秋乃野の秋氣とけささる  
あふ人んあさいこれ  
あふすこしとくれとくつらよ  
野のうらうあさいこれ

凡し侍りしとてぬん

露、そのこれ秋乃たましく

いよゆく月、さら燈れ花すまき、

花露月の花は結ひしりけて露

のう結らるる花のうらむし

うらむし

いよゆく月の花のうらむし

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露

いよゆく花は結ひしりけて露



人ハ世よりいふにすむにせし  
まゝにけし居の人世よりいふに  
あせよあせよけし居にけし居に  
いし居のよれ居のあせにせし

夏や古新との思ふも松のまりあ  
青もくると侍は髪も母かりり侍り  
いりりかりりいりりあせにせし  
さ他もや秋風いりりいりりあせに  
あせにせし居れ秋のいりりあせに  
ほのいりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに

平家ゆ禁れ京氣のいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに

いりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに

いりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに  
いりりあせにいりりあせに

露木系いしく月よわきうら  
乃くはゆらうさいまうさこれららおし  
うをたはたあまやうり  
けい海難あし及と古海は月よ木系  
こりあい付たる  
こりれこのけいこりや  
ふいさは乃あこれよの月  
心とめたる  
けい乃面よる月あこりか  
こりこりこりこりこり  
月やうこりこりこりこり

をのこりこりこりこり  
けい乃面よる月あこりか  
こりこりこりこりこり  
月やうこりこりこりこり  
けい乃面よる月あこりか  
こりこりこりこりこり  
月やうこりこりこりこり

江東口書云とらや

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

あつたをさかん、あつたのさつ

携せしちりしころはふのうらみ

あはれけりてはなれりて

見らるるはなれりてはなれりて

霧のうらみはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

はなれりてはなれりて

ゆかりのついでにふりかへし

月たぐいし月をけりてあはれ

右にうらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

うらやまのついでにふりかへし

つちいひてい興い位とていんてい思ひ  
おしの秘をうあふのふれ月  
おはあや

はるあまをまやららんてんてんあやまは  
いづれ毎きあななくともあめあつ  
ふあひつせ秋のふれ母

あしのまらあやあひちらあ  
いづれあまのふれ秋の月とて  
おのめいづらあひつらん  
かきり月とあつらん

いづれあまのふれあひちらあ  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん

秋乃月あつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん  
あひつらんあひつらんあひつらん

秋の月信



晴ふきしはあまらうきおふく  
のち海らとけしるのち朝露のき  
きはけしはあまらうきおふく  
あまらうきおふく  
下葉らうきおふく  
情乃月とらうきおふく  
いふ面も長少を侍と古部を只  
秋乃風のうちらうきおふく  
こつり侍一旧部のおあはらうきおふく  
あまらうきおふく  
けしるあまらうきおふく

乃情雨くはあまらうきおふく  
のち海らとけしるのち朝露のき  
きはけしはあまらうきおふく  
あまらうきおふく  
下葉らうきおふく  
情乃月とらうきおふく  
いふ面も長少を侍と古部を只  
秋乃風のうちらうきおふく  
こつり侍一旧部のおあはらうきおふく  
あまらうきおふく  
けしるあまらうきおふく





露あさこころゆるあすれあまの風  
 衣うは月よしくと衣はまろく  
 樹蒼々として人の心もさびる  
 衣月すこして衣うたかへ  
 うりうよんそ神の色こそ然  
 らあれ志うり衣よ月こそ  
 うりうよんそ神の色こそはるあ  
 衣月よ打とくぬくもあるとり付  
 衣乃衣月のあえうりうよんそ神はさ  
 とや梅衣衣うりうよんそ神はさ  
 乃衣うりうよんそ神はさうりう  
 乃衣うりうよんそ神はさうりう

衣のあされを衣はさまろく  
 小山田は麻井衣の影はまろく  
 衣あり山うりうよんそ神はさ  
 衣すんそ我衣えうりうよんそ  
 小野乃衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 小野乃衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風  
 衣よんそ衣はさあまの風

誰はまゝにけりね海舟も  
たゆみなくあからるすつ晴る  
とくしつ月ころころ春のく  
城は影は乃ほり白くま  
とくや鴨存ともあり  
多しらくのほれつげ  
朝日守城は霧よらむら  
く風さびし川の流れ  
存乃あけはあはれに  
白面の舟ははり  
まやこの船を乗れふま

存のえとく  
刺乃ふまに  
山ろくあつた  
物日守  
とくあ  
とくは  
あ  
花  
あ  
一  
一

うらやまはあはれす

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつ

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

あふりつは松伯のなりん

霧うらみかよのちやうらうら  
井か野をいけまきとてたなく勢

い時香の糸氣

山いけくうあはれ霧れうら

とての草れいほりの空乃あ

山はいけくうと蟹あそくさや

もよそをわつこくあくわ

若とほりけの霧れうはあ

鳥言まはあまの霧れあくわ

人のしわとせせくわとあま

あいぬんと付たあぬ

霧うらみかよのちやうらうら  
井か野をいけまきとてたなく勢  
い時香の糸氣  
山いけくうあはれ霧れうら  
とての草れいほりの空乃あ  
山はいけくうと蟹あそくさや  
もよそをわつこくあくわ  
若とほりけの霧れうはあ  
鳥言まはあまの霧れあくわ  
人のしわとせせくわとあま  
あいぬんと付たあぬ  
霧うらみかよのちやうらうら  
井か野をいけまきとてたなく勢  
い時香の糸氣  
山いけくうあはれ霧れうら  
とての草れいほりの空乃あ  
山はいけくうと蟹あそくさや  
もよそをわつこくあくわ  
若とほりけの霧れうはあ  
鳥言まはあまの霧れあくわ  
人のしわとせせくわとあま  
あいぬんと付たあぬ

あまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

あまのあまいよのあまのあま

うつくしき秋は可れ伊あがや  
秋といふ物にこの年の何れか  
あつてこゝろあて付侍りや  
ソクタ露れまにけりとも  
汗こもて野色の秋風を  
清めよ露命人そに  
のやよ吹はるそと  
乃露りな成うま  
侍るん  
のさふなきも  
凡そら秋れ葉本の露と

秋風乃ふ吹く喜羽の葉本の  
のさけらふまに流し  
本れうとて露の  
秋回あけ面けと  
たふとあふれ  
葉をまといふ  
何このまに  
はまよと世中  
露乃か  
面けの  
本と

桃園文様並にけしきよすいぬり  
右ふとありて花の露もあはれ  
おのれ文もさのふすいぬり  
のこりや

月乃入り洛れしとてのこり  
年れしとてのこり

いらふ年一はれぬらりかろる考合  
いりし言乃風来しとてけしき  
り洛れよみぬ

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃

いよりのたふれ秋乃  
いよりのたふれ秋乃



川邊乃言濱の形守は秋の風景や  
はしののけりきくこふみ  
舟しろ船この一かやれ秋の言  
音の確りききしむらりるひきか  
いそそ舟しろ船人みまは恒屋のま  
住ののこいぬく一平生かあこい  
梳白ゆきあゝの恒屋は確と我々の橋  
とらりぬくは海り平生ぬくまか  
けりぬくは海り  
いぬく人をもつはこあは  
ほやまのぬくすうあまは海

私  
今更

はあはは海は秋の風景や  
はしののけりきくこふみ  
舟しろ船この一かやれ秋の言  
音の確りききしむらりるひきか  
いそそ舟しろ船人みまは恒屋のま  
住ののこいぬく一平生かあこい  
梳白ゆきあゝの恒屋は確と我々の橋  
とらりぬくは海り平生ぬくまか  
けりぬくは海り  
いぬく人をもつはこあは  
ほやまのぬくすうあまは海

けいりうりうりなもきすし東氣よりけ  
けとらつ此母のけひ  
秋やふらきじうりうい

ある日敷のサマハハ付る如津國乃  
野よあり秋さつるしけのわら  
ふまぬ月となきとらへに秋さ  
サハハらつこのは松のあてあふ  
海一玉けん人れ秋さあのみまてあ  
おく思やふらふとそたふまては  
なふしきとくららのもあれと執

はよはぬ秋のけりあふ  
いのしは秋よとまけくらわ  
る月れつこの橋あしき  
月乃やのけつとらられよあひ  
らよやうと玉れ居このつれうい  
母のころや愛も今も  
久この中なら川れういふ  
あやとこつら  
に秋のけらそあれぬ  
あのかれとらあふ  
らうとらあふ

夕風は好くもさく度せうて  
燈はほり此ののちのほらた

花よわらふ夏の夏草うら

らぬ乃雪はさし時々の寒氣をく

み此友草とけり色はあふ糸と書

はしちゆあり

かあのあるじりいひまぐらひ

よりあはれ雪のさしと射してゆ

このおのころのさしと射してゆ

るれりいひまぐらひにうらた

のけりいひまぐらひにうらた

らち切るとはあつたむ

にち同ち此月とあふのころは月

といふさきり松を雪まじり

くはちそとちいひまぐらひ

そとちそとちいひまぐらひ

おのころは雪うらとけり

我がそとちいひまぐらひ

松乃葉も雪けり下り

ま田んぼのさしと射してゆ

さしと射してゆ

あはれいひまぐらひ

あはれいひまぐらひ

おきかぬ〜哉〜とはのらうらう〜あ  
ま〜なり〜

●ふれ〜又〜お〜の〜つたあ〜

大井行きお〜いあ〜におきか〜て

川のりから志〜るまらあ〜〜い〜調〜や

大井は昔船乃川系より〜

た〜り〜く〜ほ〜ふ〜船〜を〜あ〜け〜れ

う〜ち〜ろ〜と〜ん〜が〜と〜ま〜み〜の〜ふ〜ら〜う〜と〜ん

伊よ〜し〜き〜て〜も〜え〜ん〜後〜を〜ま〜け〜く〜ら〜な〜と〜ん

ま〜と〜ず〜も〜老〜の〜ゆ〜か〜と〜う〜〜あ〜の〜の〜

川〜の〜ま〜ふ〜り〜から〜あ〜わ〜い〜い〜と〜ん〜あ〜の〜

毛乃ちら〜と〜あ〜〜

●世才感長〜と〜く〜子〜を〜と〜ん〜し

人〜い〜ら〜う〜わ〜ら〜と〜れ〜あ〜ま〜

お〜ら〜城〜の〜岩〜乃〜あ〜ら〜る〜と〜ん〜な〜ま〜て

お〜糸〜は〜い〜糸〜の〜と〜ら〜と〜も〜み〜ろ〜人〜が

は〜ら〜お〜お〜は〜人〜の〜た〜と〜〜あ〜て〜る〜と〜付

●p物まにうら

く〜ら〜と〜や〜〜は〜の〜ま〜ひ〜

と〜年〜ら〜あ〜ら〜い〜と〜〜は〜と〜も〜あ〜し

こ〜ち〜亭〜と〜す〜ま〜あ〜ら〜〜一〜夜〜の〜う〜ら〜や

白あは休あ〜

初とはかり枯れしはなれむ  
きりらむとて一箇とてはるむ

白雲南より吹く風は秋の風  
如しの風とては秋の風  
とては秋の風とては秋の風  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
三つゆりゆりゆりゆりゆり

九月九日  
とては秋の風とては秋の風  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

付るる

暮乃けり

すこかまにこむ地はうりそこり  
川にそとらむ此流のよの中

本条ゆりゆり川にそとらむ

をこるるなりあふ枯れ  
いとはははははははははは

去るるゆりゆりゆりゆり

思入ははははははははは  
か  
ゆりゆりゆりゆりゆり

みゆりゆりゆりゆりゆり

くりかへしに君敷の船泊て

思安にまはるるかたに詞のまじ

御事一君ふふじく陸路まじり

おつりPに及びす

くりかへしに君敷の船泊て

かたなり

床乃言七かたなりと名あて

枯いしとあつりしとあつりし

言屋のわはるは床の初を枯家のほ

き海より一とあつりしとあつりし

まこれと枯の国をやりとあつりし

小船をいしは枯いとはは

いしくみより又うまに枯乃くらあて

まかたりれとあつりし

九月也よりこの人れうじだつり

まは言てけ枯乃くらとあつりし

事をおひしとあつりし

九月也よりいしとあつりし

屋よりとあつりし

愚の老糸巻

冬連奇

さいころりまの神りまこれ又  
 山風よしりれいも冬こそ  
 神垣のこまとははるは社仏のた  
 まはこてぬくははるあおしとま  
 たるまれ格の冬まうそあ  
 いゆるしのた  
 神りまこれしりのしよあまはは  
 りまあまこまこまこまこまこま  
 ありあまこまこまこまこまこま

雪とおろりくもられぬ

神はまこあまのまらりあはた

河面こくくくくくくくくくく

まらりくくくくくくくくくく

まらりく

まらりく山はあまこま

まらりく神りのまらり

まらりく月乃あまこま

まらりくあまこま

まらりくあまこま

まらりくあまこま

1 羨とありてこそ 聖的なるたよりあり

都におしあはれとて かくそふて

しつらふらふらふの 唐は花のて

たふせいとて 袖ぬきとらん

つらふの ありとて かくそふて

そはの ぬきとて かくそふて

我神ふし 井よは 我とて かくそふて

かくそふて 誰同とて かくそふて

1 加人とも ありて かくそふて

よふとて ありて かくそふて

うらふとて ありて かくそふて

木葉ちり 人もうらふらふ

木葉のちり 人もうらふらふ

かくそふて 誰同とて かくそふて

又うらふ 羨とて かくそふて

1 とて ありて かくそふて

かくそふて 誰同とて かくそふて

のらまら かくそふて かくそふて

かくそふて 誰同とて かくそふて

1 かくそふて 誰同とて かくそふて

かくそふて 誰同とて かくそふて

かくそふて 誰同とて かくそふて



けしむのまへにふるまへぬし一毎の感懐せし  
まへにこそし言ふことしは  
本ころのいりりは月か  
まじりのおもひありあり  
まじりあはれにたれ冬の日  
まじりあはれにたれ冬の日  
あはれにありはるはむあはれ  
まはなりし一光あはれ  
よはれにありはるはむあはれ  
らあはれにありはるはむあはれ  
あはれにありはるはむあはれ

ふあはれにありはるはむあはれ  
まはなりし一光あはれ  
よはれにありはるはむあはれ  
らあはれにありはるはむあはれ  
あはれにありはるはむあはれ  
まはなりし一光あはれ  
よはれにありはるはむあはれ  
らあはれにありはるはむあはれ  
あはれにありはるはむあはれ  
まはなりし一光あはれ  
よはれにありはるはむあはれ  
らあはれにありはるはむあはれ  
あはれにありはるはむあはれ

ゆきの音——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

あつらふのあ——に——

乃のついでにふしてあてありの糸とてりよ  
やほそいぬらそ、かあした音と三入て後り  
まゝあつらひにこりせりあつら  
しるれ月こしにせりあつら  
凡ちいゝえいゝあつら  
まゆふあつら  
竹よあつら  
乃まあつら  
竹よあつら  
白のいぬちいゝあつら  
まゝあつら

こころの音屋の月と祇とて  
海軍物持とるよあつら  
すまあ屋おあつら  
いゝいゝあつら  
濱ちりりあつら  
やにれ月乃このあつら  
川あつら  
あつら  
あつら  
あつら  
あつら

海のしるしをたまたま乃南歌

あまのつらねのくさくさ

ちりりる音れしうきうき

海も乃冬の東風たり

ゆきゆきゆきゆきゆき

なぐりたる風をひらき

ゆきゆきゆきゆきゆき

あまのつらねのくさくさ

ちりりる音れしうきうき

海も乃冬の東風たり

ゆきゆきゆきゆきゆき

あまのつらねのくさくさ

ちりりる音れしうきうき

海も乃冬の東風たり

ゆきゆきゆきゆきゆき

あまのつらねのくさくさ

ちりりる音れしうきうき

海も乃冬の東風たり

ゆきゆきゆきゆきゆき

あまのつらねのくさくさ

ちりりる音れしうきうき

海も乃冬の東風たり

和歌集

にのみしとてはらむとてしる

あはれむこゝろのきりたりとてはらむとてしる

はらむとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる

きりたりとてはらむとてしる



のらとりははなを

菊さうあつ乃言れりつ松

いづもをけはあついつく菊

ちうをくにさうあついけ言乃さあや

とらあついのさあついつつをはらる

是あつれあなりとをまつ侍

菊さうものりあつ

いづのあついつつ

菊乃言れりつ乃言の心

天上よ言山さあ鬼あついつくさあ

多毛ありあついつく言に空さあ

若逼あついつく果はいつくと男あついつく

あついつく造化のあついつく力也

あついつく法家とあついつく侍

言心童子のあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく

あついつくあついつく





非若母也大井之住跡くつらり三葉をて  
 都くそ業とのよは出たまふ吾れ物係  
 母の都(は)はまてかしまふ可母のうみ  
 たまぬと三葉は川よきて付り也  
 ありちりの松風きりんぬ名非若三葉  
 まく大井也常らり三葉をて業との出若ま  
 るいぬりや日音ぬりなるもやり名あはら  
 一のうみひぬり一のよとふにほ名のあ  
 ともぬりりやあはらまぬん  
 竹の葉のぬりいぬりのうそ  
 いあ井よとまぬりふ品ぬり白布をて初はし

ていづらぬといづ行のまをすりぬ又言ふ  
 まい人ならぬ也日教とは昔れとくろくや  
 日文まにまぬりくろくやあまといぬん  
 まく竹のぬりいぬり  
 いあ井よとまぬり神のまを日教い  
 おぬぬきりあまはぬんを竹の  
 葉まにまぬり竹のまをすらぬあ井ぬんし  
 月まぬりまぬりまぬりけをてあま  
 まぬりいあ井也神  
 ろりぬりまぬりまぬり  
 小つらぬりまぬりまぬりまぬり

小糸君自中自修時の糸々羨々  
よ川姑いのりともらうて付りぬ  
小糸君月中内修時糸々をう回  
たふたひのみそ人そしとすふ  
うふ東乃はのまらよせとて  
いふい糸糸がたえいあり  
糸糸のらりりこのゆたか  
常いそくそい書もや恨ま  
山内もはるうらみちれ  
五言書とく思ふに何と  
煙者のあいらいのうらは恨はく

書い糸糸のらりりて付ら  
うらみちれ  
い糸糸の本糸のなめ梅  
い糸糸のらりりて付ら  
梅のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら  
い糸糸のらりりて付ら

冬より部は乃こらつたか  
くろといふはまの  
けりまかつて  
九を小佛こまつた  
ちくの僧こら禁重  
ふつふい布放るこま  
こふえ行ゆか  
佛かへこら禁重  
こら布放るこま

愚

愚の老葉第又

松連寺

さうりまきは  
なとまの  
あり  
そふ  
思  
世  
ま  
ま  
あ



何れは入らうか... 言はぬはな合也  
ひらひら... なくら

おまよひお月... のこ長まら  
ら花神の洞... 月も花ひたり

ちととれけい面けや

。石をきく... 様をいよ

九句別... 只このたり

小情と... なく

まよは... け

ゆつと... け

あるを... なく

まよは... の花ひ... 思居... 花の

とやあ... け

あるを... 花ひ... け

居... け

のらあ... け

まよは... の花ひ... け

け... け

枝... け

只花... け

と... け

別... け

身とくいのねの山よいつる身  
たしひらりよのいそきうて松の石  
とよ子すのねらふのしら  
松人乃うけはかしてらうねい言て  
まは松よとく太刀のまよひ置人乃  
うけまあまのまにまに人れしてら具也月  
たのぬ

う海とるばはらうてらう  
言乃れれい付るよのて  
とらかの人をうら松凡  
月ちりさの山後小約れ言りて

じよのけと  
ういそめけくねあつる乃と

東坡もや馬上後ゆまふ朝日昇けり

やまじよのけの水此涼  
ういそめをゆまのゆまふゆ

かろこしよやうらうあま

松はいつる麻はゆたよりと

やまゆゆまのいはらうい人

ら松じよのい月れおつる松よ

まらけいこひそらうま

まらけいこひそらうま

うきまじりまぢゆのなりと極富のありし  
しづるとんかまうそとやとくくと付し  
しづり日いづしとまう寸言の唇  
羨いさけぬいしづりこい人  
新中乃極人の所方やあし作れ  
しづりまあしぬと伊のめじらん  
解りろ田表れ流の由乃言  
あはらふまこの流をまておとみま  
くはあまのしづりまは  
しづりまをまのそかあし  
夏りれあをまあしづり

夏りれあやの由流の由乃言  
しづりまをまのそかあし  
あはらふまこの流をまておとみま  
くはあまのしづりまは  
しづりまをまのそかあし  
夏りれあをまあしづり

新古





一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人  
一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人  
一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人

一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人  
一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人  
一 雲の如く人の別 雲は木くさるるに 縁あり  
山後の松と枝とを思ひて 今人一人  
えらる松と枝とを思ひて 今人一人  
はらる松と枝とを思ひて 今人一人

今にけくら糸の月夜あはれん

松乃曉の糸氣曉をならん

ふさげなかり夕と暮いよすれそ

こし花枝のこ火は海よりきて

のまよ一葉の書はよすれと

煙たよ書れこひののりもそ

感情のこりぬさや

つるしひるまは遠らんりま

こははれぬのちとらふこ

あさもちさるここのりそ

草花燈さのひよおこいそ

野さるる松宮の一本もほのぼとこは

ゆくの清よあをぬいそあはれそ

ちとらとこ

燈されぬ中も松宮いほのぼとこは

又燈清よあをぬいそあはれそ

なほこりぬ

人のほろこりぬ

おほろこりぬ

おほろこりぬ

おほろこりぬ

おほろこりぬ

いひのこゝろをいふこと  
新すれ言にいらりあけさ大おんて  
ますは後あていもようす  
山路のしづれお路れしづれ  
神さ月しづれお路れしづれ  
しづれにおんいふれ  
ほくく神さ月もまことりりて  
月おしづれお路れしづれ  
神さ山路なること只おんて神さ月  
のこゝろを  
あふらりなることすいひく

山路のしづれお路れしづれ  
新すれ言にいらりあけさ大おんて  
ますは後あていもようす  
山路のしづれお路れしづれ  
神さ月しづれお路れしづれ  
しづれにおんいふれ  
ほくく神さ月もまことりりて  
月おしづれお路れしづれ  
神さ山路なること只おんて神さ月  
のこゝろを  
あふらりなることすいひく

岸より始ちるやきくねおれははら  
又しつめいのほくくくくくくくくくく  
昔のちよとてはたまきりあとの我  
はきりくはとまじり耳るねねるふん  
ふく書かす令也  
まのあひのちよのちのほき岸のたふと  
りくくくくくくくくくく

海ををりくくくくくくくくくく  
あふのちよのちのほき岸のたふと  
あふのちよのちのほき岸のたふと

和田京平鶴はけとけりあしははくくくく

印多同也

かひそあふくくくくくくくくくく

あふのちよのちのほき岸のたふと

百葉のちよのちのほき岸のたふと  
あふのちよのちのほき岸のたふと  
あふのちよのちのほき岸のたふと

あふのちよのちのほき岸のたふと  
あふのちよのちのほき岸のたふと

新嘉坡、ついで、橋をまゝ海へ

玉のしほり、おきよあけり

新嘉坡、橋をまゝ、ついで、ついで、ついで

津や玉のしほり、おきよあけり

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ついで、ついで、ついで、ついで

ゆりまふ松風とまてあそ  
あはれくさしうきくはあは

海く乃松風とあそのおとまてあそ  
こしあはれなる

うきくはう風とあそなま  
まうりそい松風とあそ

夕風あそいあそ

あそあそくはよふあそあそ

あそくとりりり川つら松

泊るあそ

山風とりあそ

あそいあそいあそいあそい

松平とあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそ

あそいあそあそあそあそ

三千里あ随行ま十九年中候に達し

あそあそあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそあそあそ

あそあそあそあそあそあそあそ

あふまくとあつきのいふ  
おしい屋のしとちりしはよあれ  
うらとちりてちりしはよあれ  
いひのちりしはよあれ  
かろいし月都よりしりしは  
ちりしはよあれ  
のちよあれ  
あふまくとあつきのいふ  
おしい屋のしとちりしはよあれ  
うらとちりてちりしはよあれ  
いひのちりしはよあれ  
かろいし月都よりしりしは  
ちりしはよあれ  
のちよあれ

あふまくとあつきのいふ  
おしい屋のしとちりしはよあれ  
うらとちりてちりしはよあれ  
いひのちりしはよあれ  
かろいし月都よりしりしは  
ちりしはよあれ  
のちよあれ  
あふまくとあつきのいふ  
おしい屋のしとちりしはよあれ  
うらとちりてちりしはよあれ  
いひのちりしはよあれ  
かろいし月都よりしりしは  
ちりしはよあれ  
のちよあれ

うらえらけらるるこのを  
たきま 野山くくくあ  
聖山よと我を 松人よこの松  
人好くす



